HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	多様化する入試とこれからの教育支援 ： 総合入試で学生はどう変わったか
Author(s)	川端, 潤
Description	北海道大学附属図書館講演会　講演資料
Relation	北海道大学附属図書館講演会. 2012年3月27日. 北海道大学.
Issue Date	2012-03-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49460
Type	lecture
File Information	asc120327HUSCAP.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

HOKKAIDO UNIVERSITY

多様化する入試とこれからの教育支援

- 総合入試で学生はどう変わったか -

北海道大学高等教育推進機構
アカデミック・サポートセンター
センター長　　川端　潤

2012/03/27　@北海道大学附属図書館講演会

総合入試と
アカデミック・サポートセンター (ASC)

進路・修学支援
【アカデミック・マップ，進路・修学相談】

学習支援
【学習サポート，スタディ・スキルセミナー】

他大学の学習支援活動等の紹介

総合入試と
アカデミック・サポートセンター（ASC）

総合入試を導入した理由

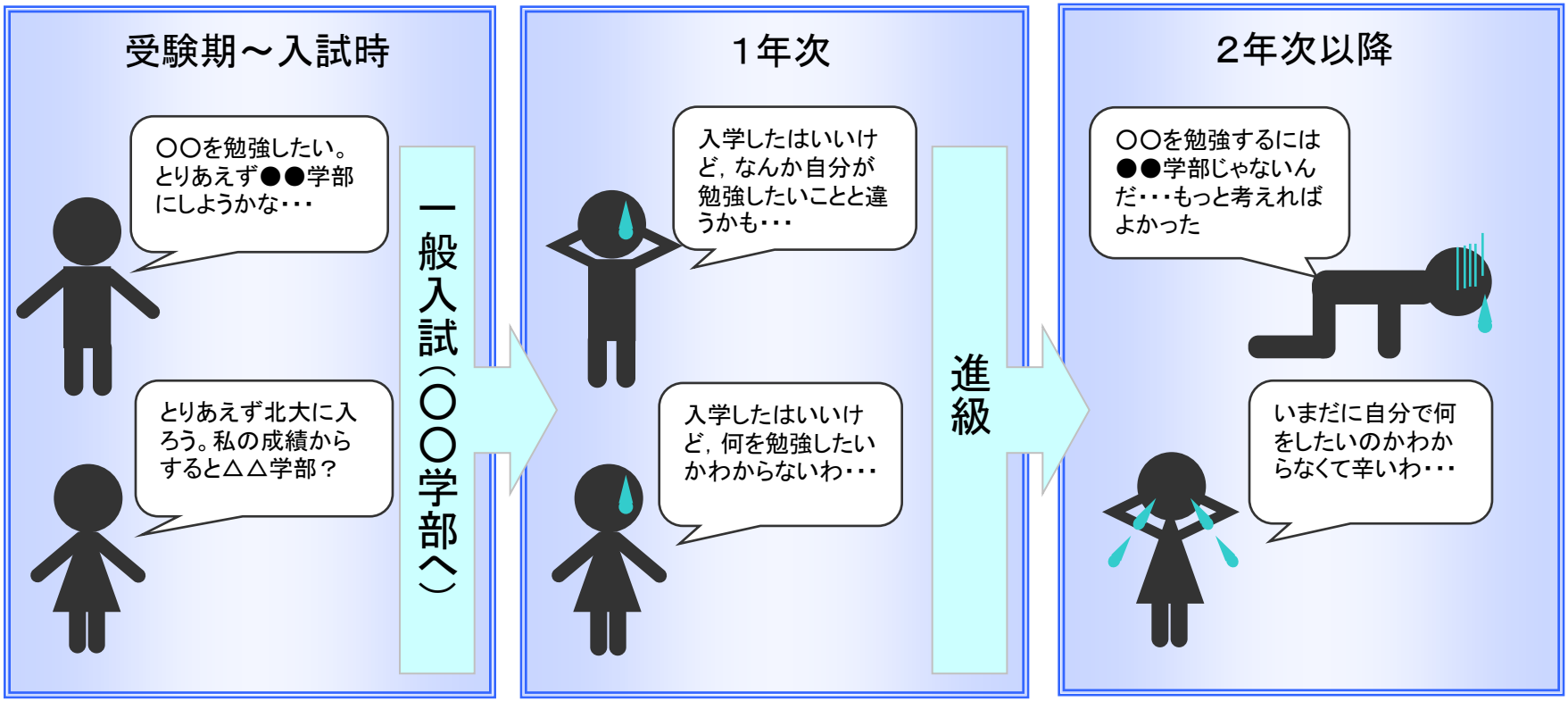
未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消

学問分野の細分化・融合化への対応

初年次教育における共通教育の充実

未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消（1）

受験期に「学部」を決める方式

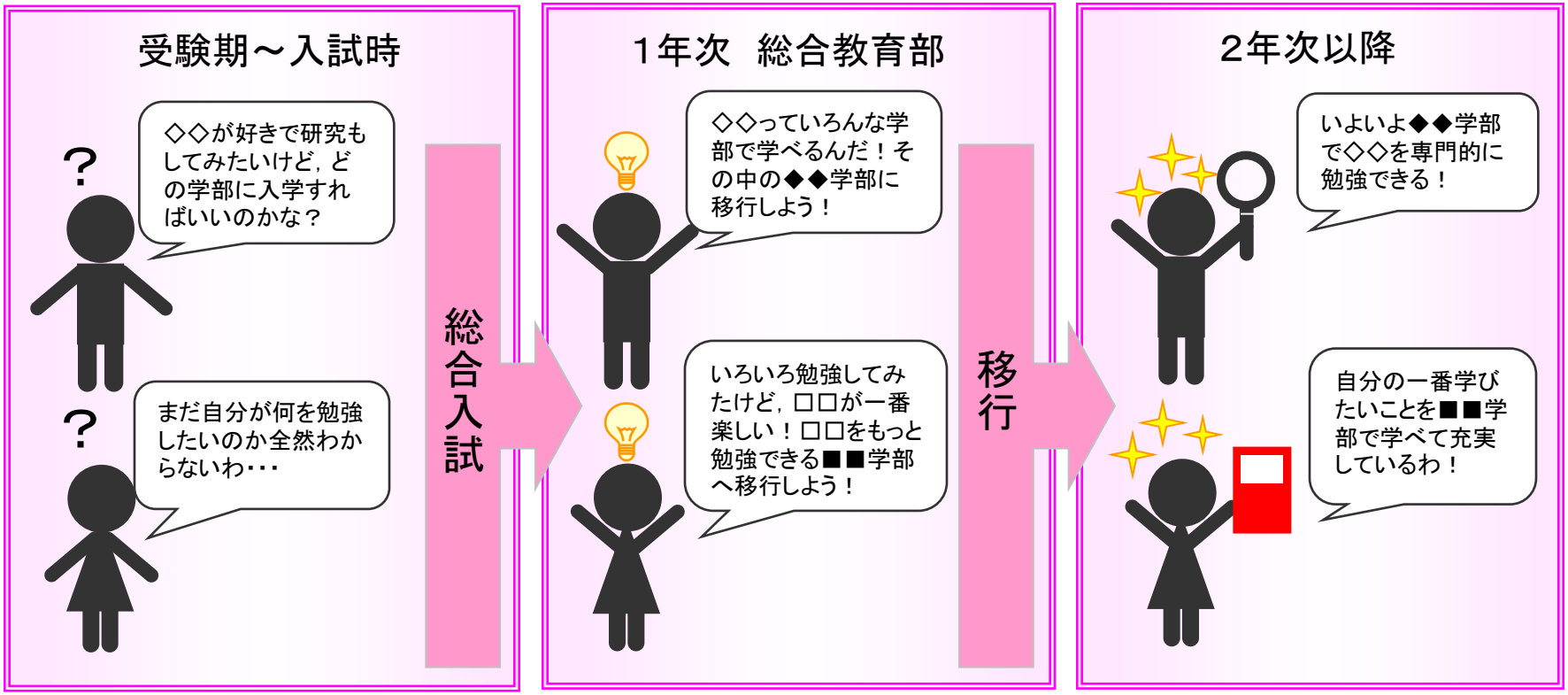


・とりあえず北大に入学
・自分が学びたいことと所属学部で学べる内容が合わない
・本当に自分が学びたいことを見出せない

悩む　やる気低下
後悔　やめたい

未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消（2）

入学後に「学部」を決める方式

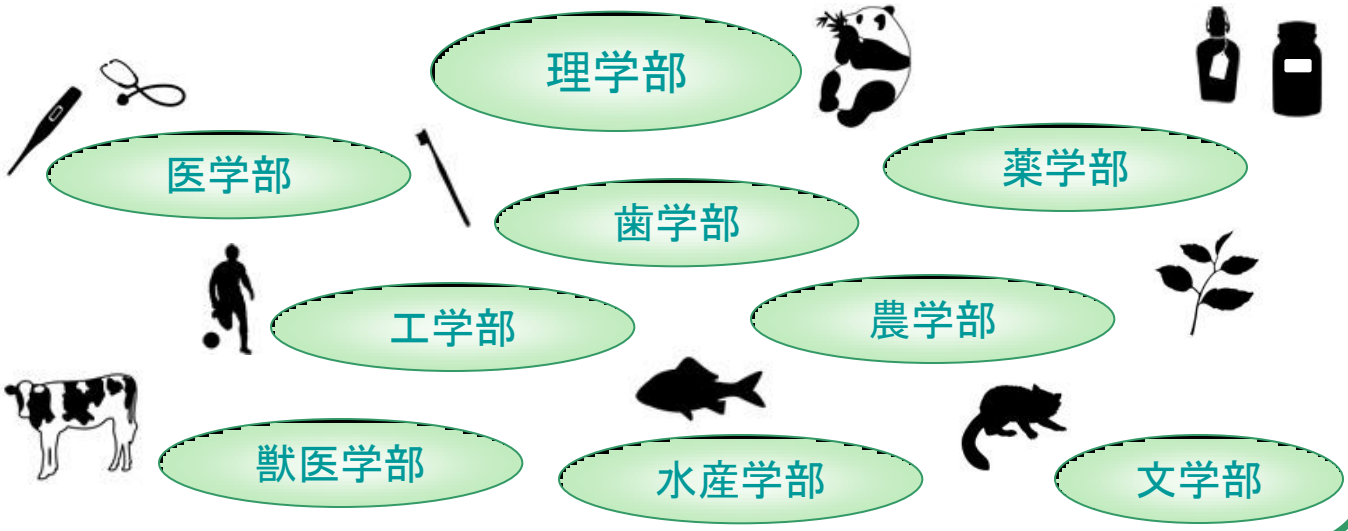


・意欲的に学業・課外活動に取り組み充実した学生生活
・十分に考え，納得した上で学部等を選択し移行
・入学後に自分の学びたいことや将来について熟考できる

→ 満足　将来への希望　目標達成　充実感

学問分野の細分化・融合化への対応（1）

生物を学べる学部 （主な学部）



学問分野の細分化・融合化

同じ学部でも学科によって学ぶ内容が大きく異なる

異なる学部でも同じような内容が学べる

1年次に上記のことを確認した上で移行する学部・学科の検討が可能

学問分野の細分化・融合化への対応（2）

～22年度 学部別入試合格者

経済学部　理学部
薬学部　工学部
農学部　水産学部

2年進級時～3年1学期終了時に
成績上位者から
希望の学科・コースに分属

同じ学部でも学科によって
学ぶ内容が大きく異なるため，
成績によっては希望しない
分野に分属されることも

23年度～ 総合入試合格者

総合入試
文系合格者

総合入試
理系合格者

1年次の成績確定後，
成績上位者から
希望の学部・学科・コースに分属

異なる学部でも同じような
内容が学べるため，選択肢が
広がる可能性あり

初年次教育における共通教育の充実

学部・学科ごとのカリキュラム

全学教育科目

学部専門科目

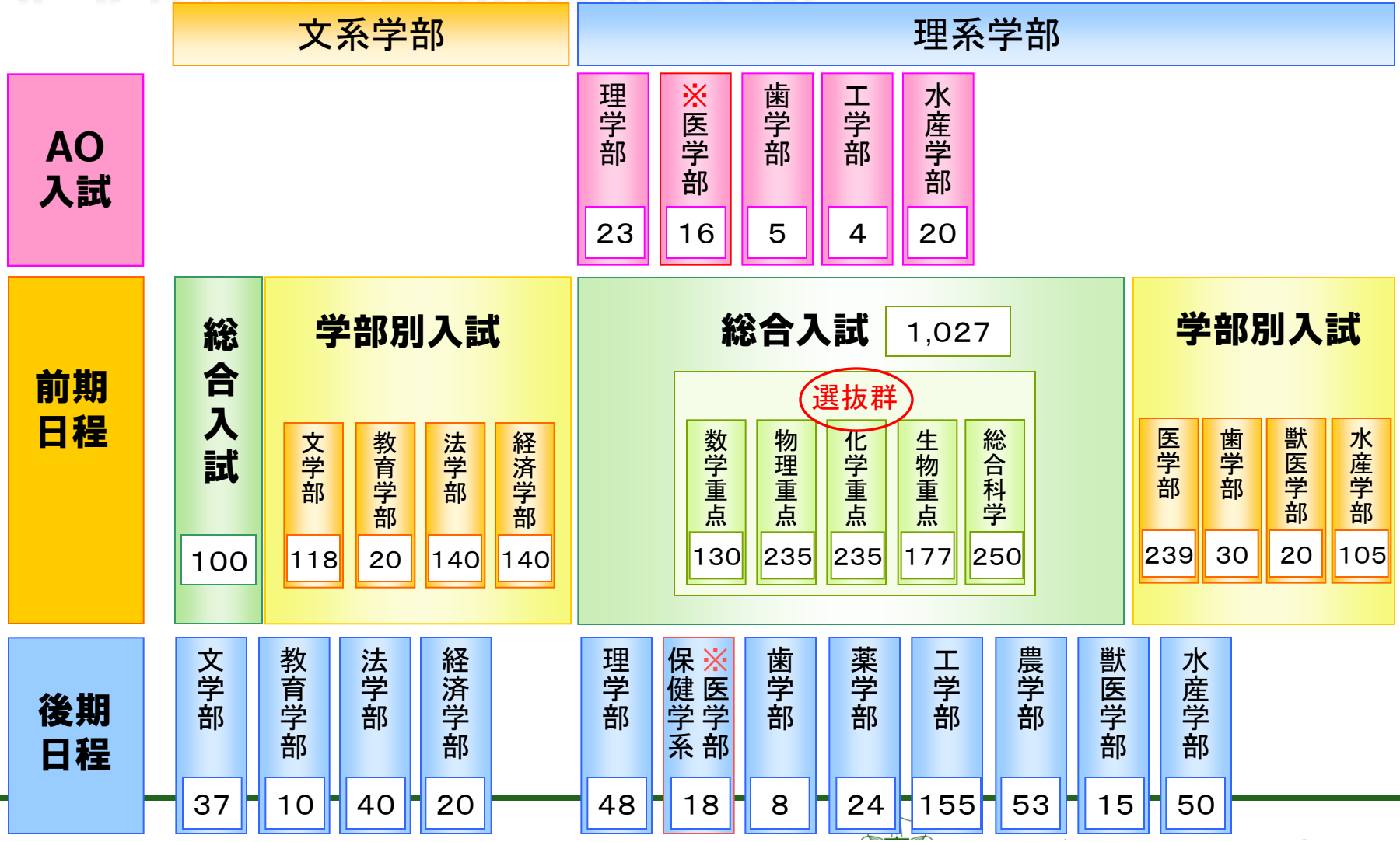
総合入試

全学教育科目

文系カリキュラム

理系カリキュラム

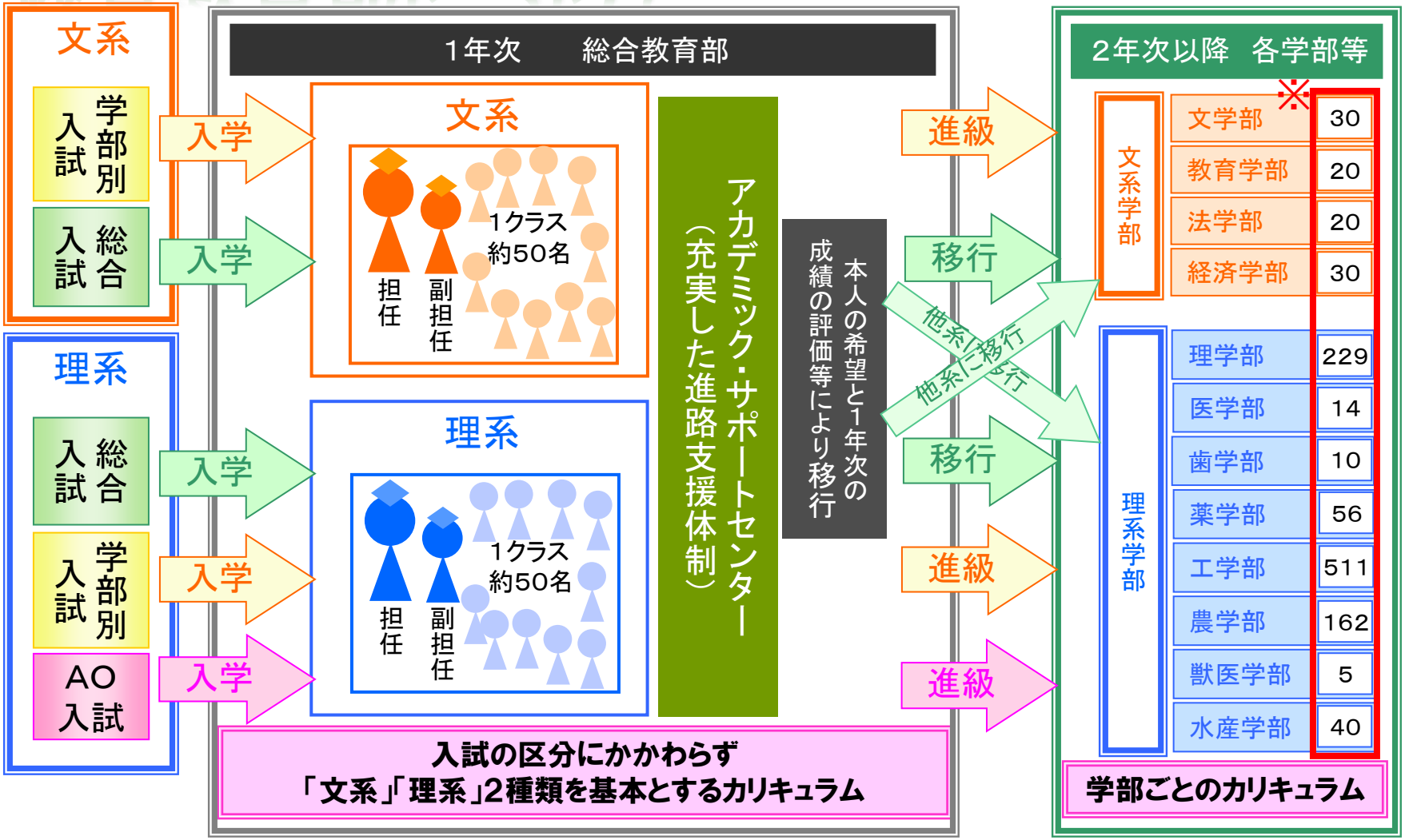
北大の募集単位の概念図



※ AO入試の医学部のうち，医学系，保健学系看護学専攻及び保健学系作業療法学専攻のみ実施します。

※ 後期日程の医学部保健学系のうち，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻及び理学療法学専攻のみ実施します。

総合教育部について



※1　人数は，総合入試入学者の移行人数のみ掲載しています（一部の学部を除き，変動する場合があります）。

※2　学部別入試及びAO入試による入学者は，2年次進級時に学部を変更することはできません。

アカデミック・サポートセンター沿革

	アカデミック・サポートセンター	北海道大学
		総合入試導入公表
2009.10	アカデミック・サポート推進室設立 （高機能センターE316）	
2010.01	学習サポート開始	
2010.10	アカデミック・サポートセンター設立	高等教育推進機構設置
2011.02	高等教育推進機構E210へ移転	総合入試実施
2011.04	進路・修学支援開始	総合入試学生入学

学習支援，進路修学支援

2012.03		学部・学科等移行

アカデミック・サポートセンター組織図

高等教育推進機構長

高等教育推進機構教育支援部
アカデミック・サポートセンター長（統括責任者・兼務教員）

アカデミック・アドバイザー　（兼務教員、3名）
・進路相談（学部等選択等の総合的なアドバイス）

アカデミック・ナビゲーター機能
目的：学部・学問へのミスマッチの解消／各種学生支援機関との連携／学生支援の充実
・学生の進路相談等に対応し、必要に応じ他の相談先へ連絡調整
・学部等選択の案内書としてアカデミック・マップ作成等

アカデミック・インストラクター機能
目的：学力・学習意欲の向上／教員へのフィードバック／授業内容の改善
・基礎科目および汎用的学習スキルに対する学習支援
・教材開発、関連データ収集、スタディ・スキルセミナー開催等

TA　（本学大学院生、5名）

アカデミック・アナリスト機能
目的：総合入試制度の検証／制度の改善／入試広報へ活用
・学習成果、学部等選択に関する調査分析等
・入学者アンケート、入試成績、学部移行後アンケート等の調査

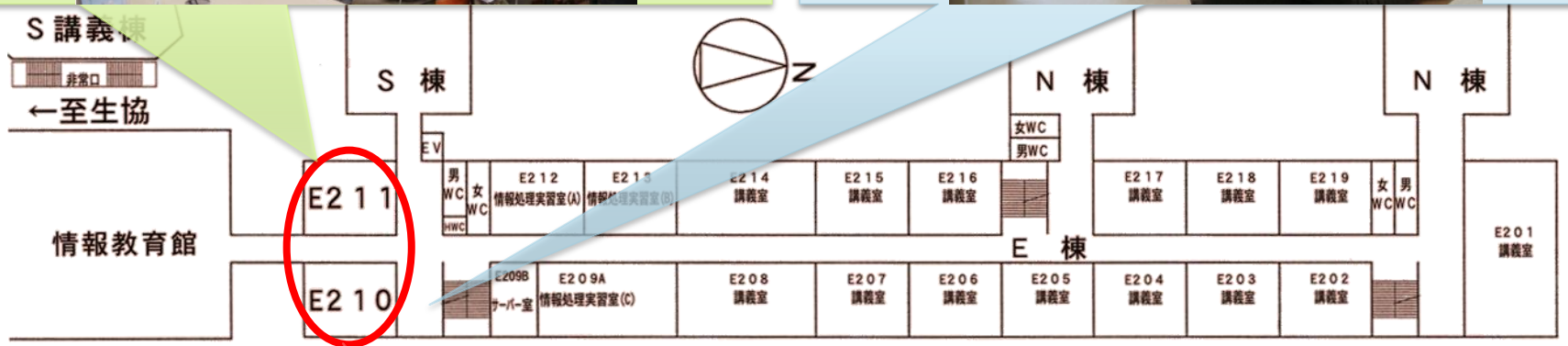
事務補助員　（1名）

学部相談員　（兼務教員、各学部1名以上配置）
・学部別入試入学者の学部についての相談
・総合入試入学者の希望する学部についての相談

各2名で担当するが柔軟に相互連携
スタッフ（特定専門職員6名）

E211 学習サポート・自習室

フリースペース



E210　ASCオフィス

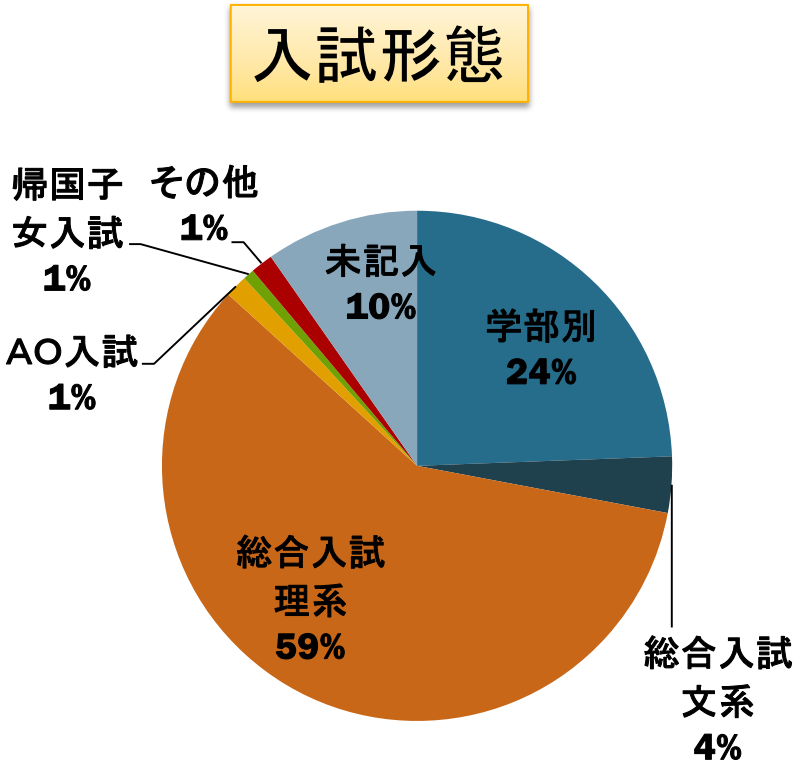
進路・修学支援
【アカデミック・マップ，進路修学相談】

進路・修学相談

- 対象：（主に）初年次生対象
- 場所：高等教育推進機構 **E210**
- 時間：**10時～17時**　**(平日)**
- 内容：進路選択や修学上の質問・疑問に対し，
  - ◇**ナビゲーター**による**基本的**な相談
  - ◇**アドバイザー**による**横断的**な相談
  - ◇**学部相談員**による**専門的**な相談

利用状況

	相談人数	相談時間 (h)
4月	199	88.8
5月	16	9.3
6月	13	4.4
7月	9	3.3
8月	13	5.4
9月	61	25.7
10月	47	19.6
11月	6	2.4
12月	6	2.2
1月	10	5.8
2月	42	22.5
計	422	189.3



- 第1学期開始時に履修や移行システムに関する相談が多く寄せられた
- 総合理系の学生からの相談が多い

相談内容

A）履修・システム

・履修上限，自由設計科目，移行点等の履修制度に関する質問
・～学部に進みたいので，時間割をチェックしてほしい／特定の授業が必要か

B）学部・学科・研究

・～学部の概要や学部・学科間での相違点
・特定の分野を学べる学部
（流通，生態系，環境，脳，人工生命，原子力etc.）

C）進路

・特定学部の就職・進学状況について
・就職に関する学部間での有利不利
・教員，公務員，国連職員等になる方法

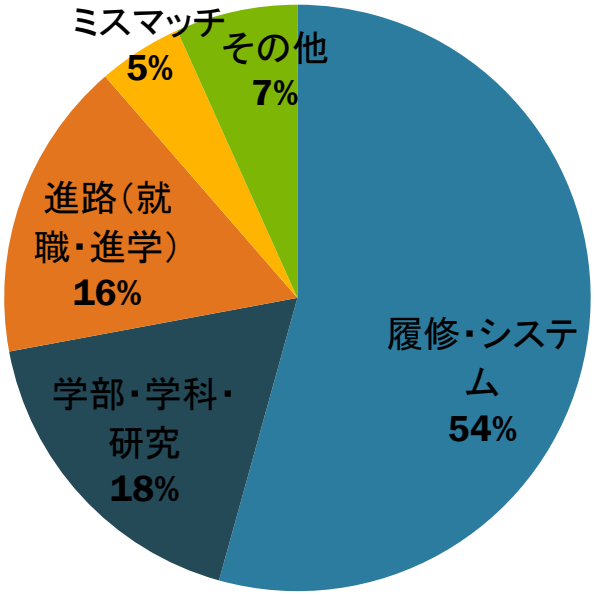
D）ミスマッチ

・総合入試の学生からの他系移行
・学部別入試の学生からの転学部・転学科

E）その他

・海外留学，サークル活動，ASC のセミナー等

相談内容内訳



相談例

Q1）ノーベル賞を取るにはどの学科が有利か？
A1）ノーベル賞の取りやすさ（仮にそれがあったとして）よりも、興味のあることができそうな学科を探す方がよい。

Q2）理学部、工学部、保健学科で迷っている。超伝導に興味がある。就職を考えると工学部、成績的に上位を狙うなら保健か。
A2）まずは自分の一番勉強したいことができる学科を見つけ、そのあと就職や成績について考慮しよう。

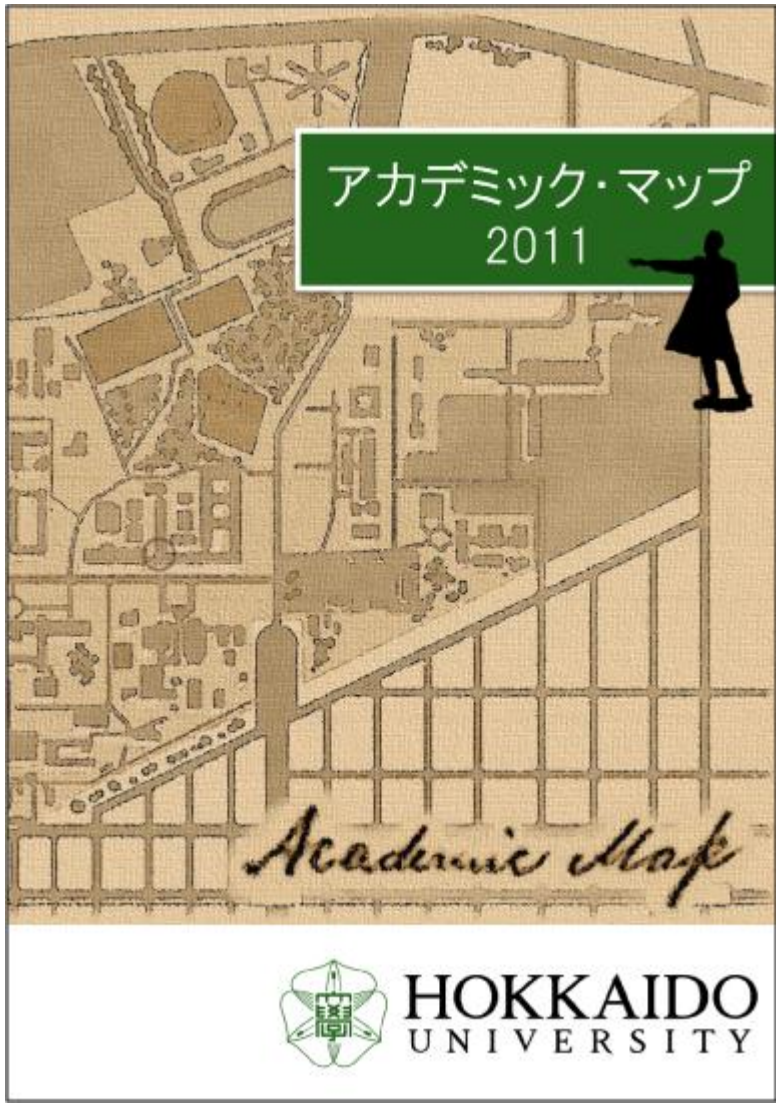
Q3）薬学科に行きたいが部活等で時間がとられ成績が良くなかった。薬学科以外にどこが良いか？
A3）応用化学、生物科学（高分子機能）等がある。まずは薬学科を第一目標にガンバル。移行できなくてもまわり道をしても自分のやりたい分野に近づけるよう考えるべき。

アカデミック・マップ

北大の学問と研究を学問やキーワードごとに整理したマップ

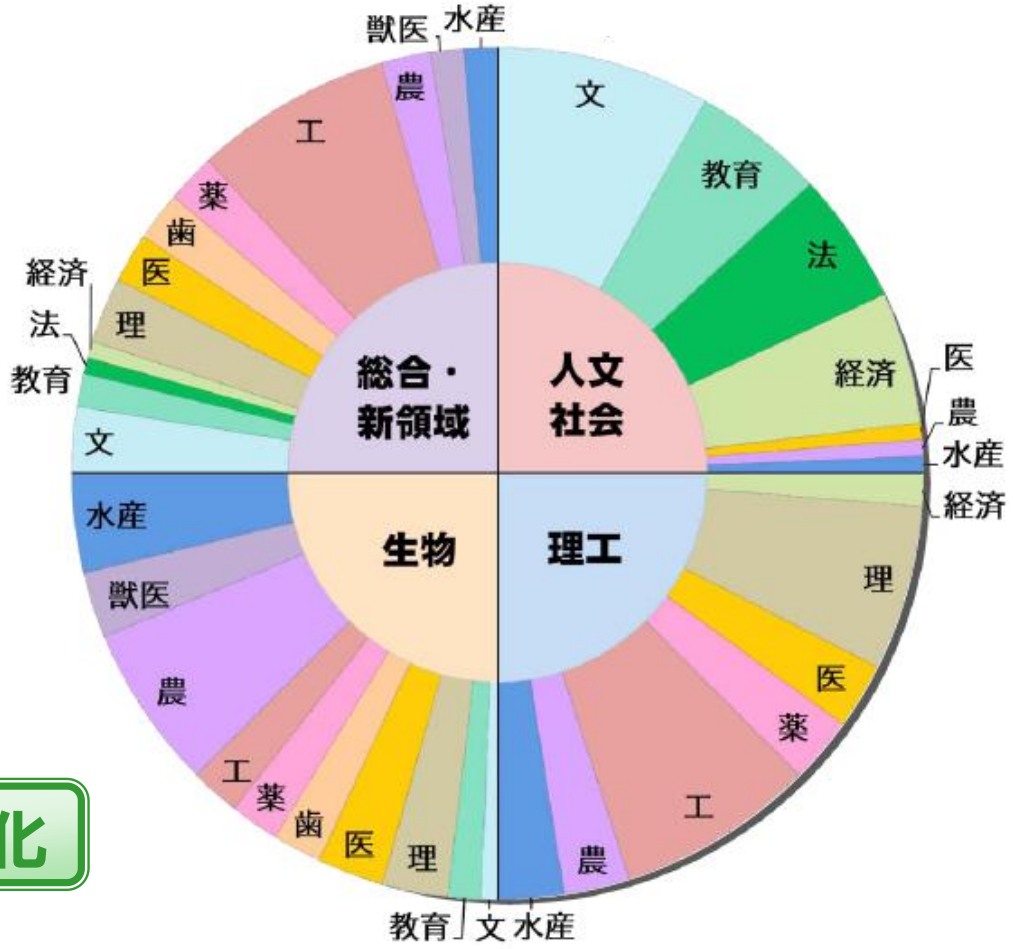
新入生オリエンテーションで配布

アカデミック・サポートセンターHPでダウンロード可能



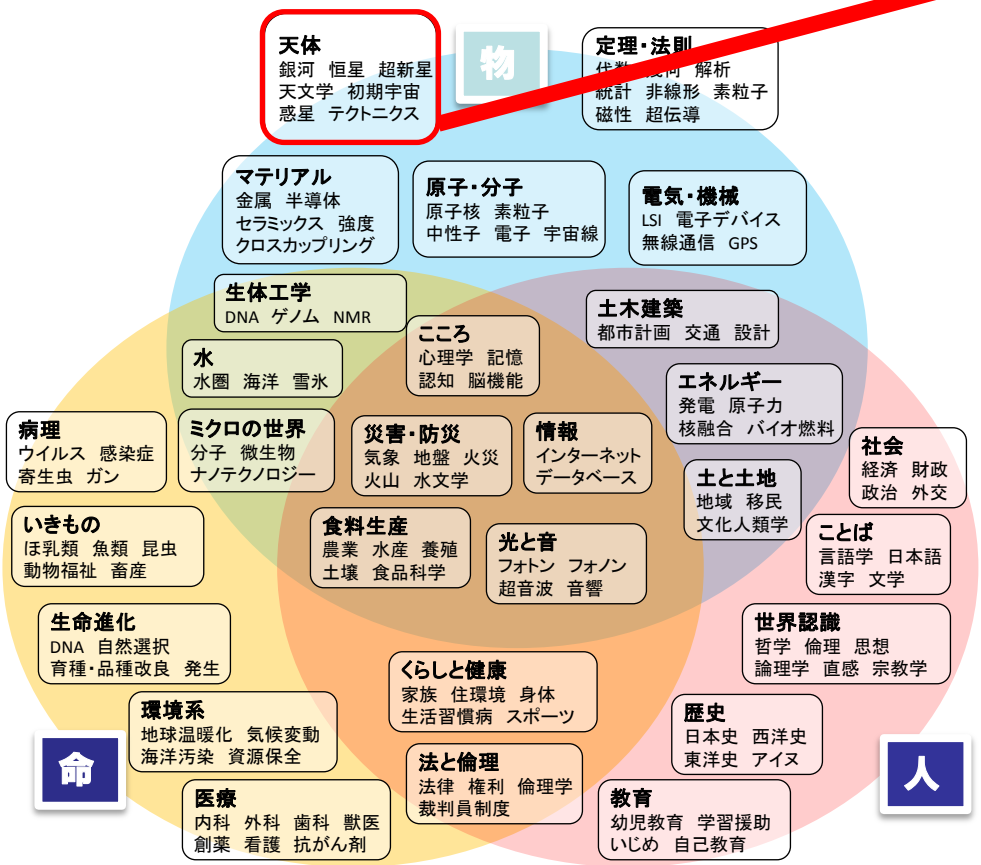
学問分野マップ

従来のイメージ



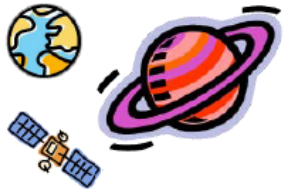
学問分野の細分化・融合化

キーワードマップ



天　体

宇宙や惑星の観測により，天体や地球誕生の神秘を解明し，宇宙開発や土地利用などに応用します。



宇宙

天文学
天体観測
宇宙物理，宇宙論
銀河，恒星
星形成
分子雲
初期宇宙
星間塵・星周塵
超新星
物質進化
分子化石
隕石

惑星

固体地球惑星物理学
地球宇宙化学
気象・海洋物理
地質学
地震
地球水循環
ガスハイドレート
テクトニクス
マントル
レオロジー
古環境
気候変動

開発

宇宙工学
ロケット
宇宙測地学
宇宙用原子炉
衛星
灌漑排水
環境鉱物学
光衛星間通信
太陽光発電衛星
地熱工学
微小重力
宇宙法

宇宙		惑星		開発	
理学部	工学部	理学部	工学部	理学部	工学部
b.物理学 f.地球惑星	a.応用物理	f.地球惑星	a.応用物理 k.機械システム l.社会基盤 m.国土政策 n.建築都市 p.資源循環	f.地球惑星	f.電子情報 h.メディア i.システム情報 k.機械システム n.建築都市 o.衛生環境 p.資源循環
文学部		農学部	水産学部	法学部	
a.哲・文		f.農業工学	a.海洋生物 b.海洋資源	法学課程	
				農学部	水産学部
				f.農業工学	b.海洋資源

アカデミック・マップ（web版）

北海道大学 アカデミック・マップ 2011

HOME　テーマ別検索　学問分野選択　移行先別検索　キーワード検索　リンク　冊子版

アカデミック・マップは北海道大学の学問・研究をキーワードによって全学的に整理したもので、新入生のみなさんの進路選択に役立ちます。オンライン版では次の機能を備えています。

冊子版PDF

- テーマ別検索:各テーマにそったキーワードから関連する移行先を調べる。
- 学問分野選択:学問分野から関連する移行先を調べる。
- 移行先別検索:移行先ごとに関連するキーワードとテーマを見る。
- キーワード検索:文字を直接入力してキーワードを検索する。
- リンク:移行先へのリンクもある便利なリンク集 。
- 冊子版:冊子版アカデミック・マップのダウンロードはこちら。

キーワードは分野と項目に分けて表示されます。分野は一般的な学問の分野名、項目はそれ以外の研究の具体的内容を表す言葉です。

難しい語句は自分で調べて、わからない時はアカデミック・サポートセンターで聞いてください。進路選択の際にはマップの情報だけではなく、講義の内容や学部紹介ガイダンス、各学部のパンフレットや便覧、ホームページ等の情報を参考にし、アカデミック・サポートセンターや学部相談員との相談を行うなど、十分に吟味するようにしてください。

第1回志望調査

2011年9月末実施

アカデミック・サポートセンターニュース第2号に掲載

学部・学科	移行定員	第1希望	第2希望	第3希望	1・2希望	1～3希望	第1倍率	総倍率
1 文学部	30	32	29	21	61	82	1.07	2.73
2 教育学部	20	6	21	32	27	59	0.30	2.95
3 法学部	20	33	26	14	59	73	1.65	3.65
4 経済学部	30	18	22	26	40	66	0.60	2.20
5 理学部　数学	37	20	7	10	27	37	0.54	1.00
6 理学部　物理	25	28	26	15	54	69	1.12	2.76
7 理学部　化学	52	19	34	53	53	106	0.37	2.04
8 理学部　生物科学[生物学]	30	38	45	38	83	121	1.27	4.03
9 理学部　生物科学[高分子機能学]	35	22	36	62	58	120	0.63	3.43
10 理学部　地球惑星科学	50	21	25	24	46	70	0.42	1.40
11 医学部　医学	5	42	12	17	54	71	8.40	14.20
12 医学部　保健[看護学]	3	0	4	0	4	4	—	1.33
13 医学部　保健[放射線技術科学]	2	4	3	4	7	11	2.00	5.50
14 医学部　保健[検査技術科学]	2	1	2	2	3	5	0.50	2.50
15 医学部　保健[理学療法学]	1	1	1	2	2	4	1.00	4.00
16 医学部　保健[作業療法学]	1	1	1	0	2	2	1.00	2.00
17 歯学部	10	8	6	12	14	26	0.80	2.60
18 薬学部　薬科学	35	66	80	31	146	177	1.89	5.06
19 薬学部　薬学	21	81	47	22	128	150	3.86	7.14
20 工学部　応用理工系[応用物理工学]	39	27	22	36	49	85	0.69	2.18
21 工学部　応用理工系[応用化学]	55	60	60	66	120	186	1.09	3.38
22 工学部　応用理工系[応用マテリアル工学]	28	16	34	35	50	85	0.57	3.04
23 工学部　情報エレクトロニクス[情報工学]	20	16	24	17	40	57	0.80	2.85
24 工学部　情報エレクトロニクス[コンピュータサイエンス]	20	8	24	18	32	50	0.40	2.50
25 工学部　情報エレクトロニクス[電子情報]	31	26	12	17	38	55	0.84	1.77
26 工学部　情報エレクトロニクス[生体情報]	26	9	12	16	21	37	0.35	1.42
27 工学部　情報エレクトロニクス[メディアネットワーク]	24	28	15	17	43	60	1.17	2.50
28 工学部　情報エレクトロニクス[システム情報]	21	8	12	20	20	40	0.38	1.90
29 工学部　機械知能工[機械情報]	45	17	28	16	45	61	0.38	1.36
30 工学部　機械知能工[機械システム]	45	29	33	26	62	88	0.64	1.96
31 工学部　環境社会工[社会基盤学]	30	8	17	19	25	44	0.27	1.47
32 工学部　環境社会工[国土政策学]	30	7	15	17	22	39	0.23	1.30
33 工学部　環境社会工[建築都市]	34	16	10	14	26	40	0.47	1.18
34 工学部　環境社会工[衛生環境工学]	37	14	14	19	28	47	0.38	1.27
35 工学部　環境社会工[資源循環システム]	26	6	21	17	27	44	0.23	1.69
36 農学部　生物資源科学	27	89	62	43	151	194	3.30	7.19
37 農学部　応用生命科学	23	37	49	59	86	145	1.61	6.30
38 農学部　生物機能化学	26	60	59	48	119	167	2.31	6.42
39 農学部　森林科学	27	35	42	51	77	128	1.30	4.74
40 農学部　畜産科学	17	25	23	33	48	81	1.47	4.76
41 農学部　農業工学	23	19	29	21	48	69	0.83	3.00
42 農学部　農業経済学	19	22	11	24	33	57	1.16	3.00
43 獣医学部	5	47	9	8	56	64	9.40	12.80
44 水産学部　海洋生物科学	10	1	4	17	5	22	0.10	2.20
45 水産学部　海洋資源科学	10	0	0	5	0	5	—	0.50
46 水産学部　増殖生命科学	10	0	2	6	2	8	—	0.80
47 水産学部　資源機能化学	10	2	3	3	5	8	0.20	0.80

進路・修学支援（今後に向けて）

相談事例Q&Aの作成

- 相談事例の蓄積，整理，傾向分析
- 掲示，web公開

他機関との連携体制の構築・強化

- ピア・サポート室
- 学生相談室，保健センター等
- クラス担任，学部相談員

学習支援
【学習サポート，スタディ・スキルセミナー】

学習サポート

- インストラクター・チューターによる個別学習相談
- 主に初年次生を対象
- 正課とは独立: 主体的学習の支援
- **2010**年より開始

チューター

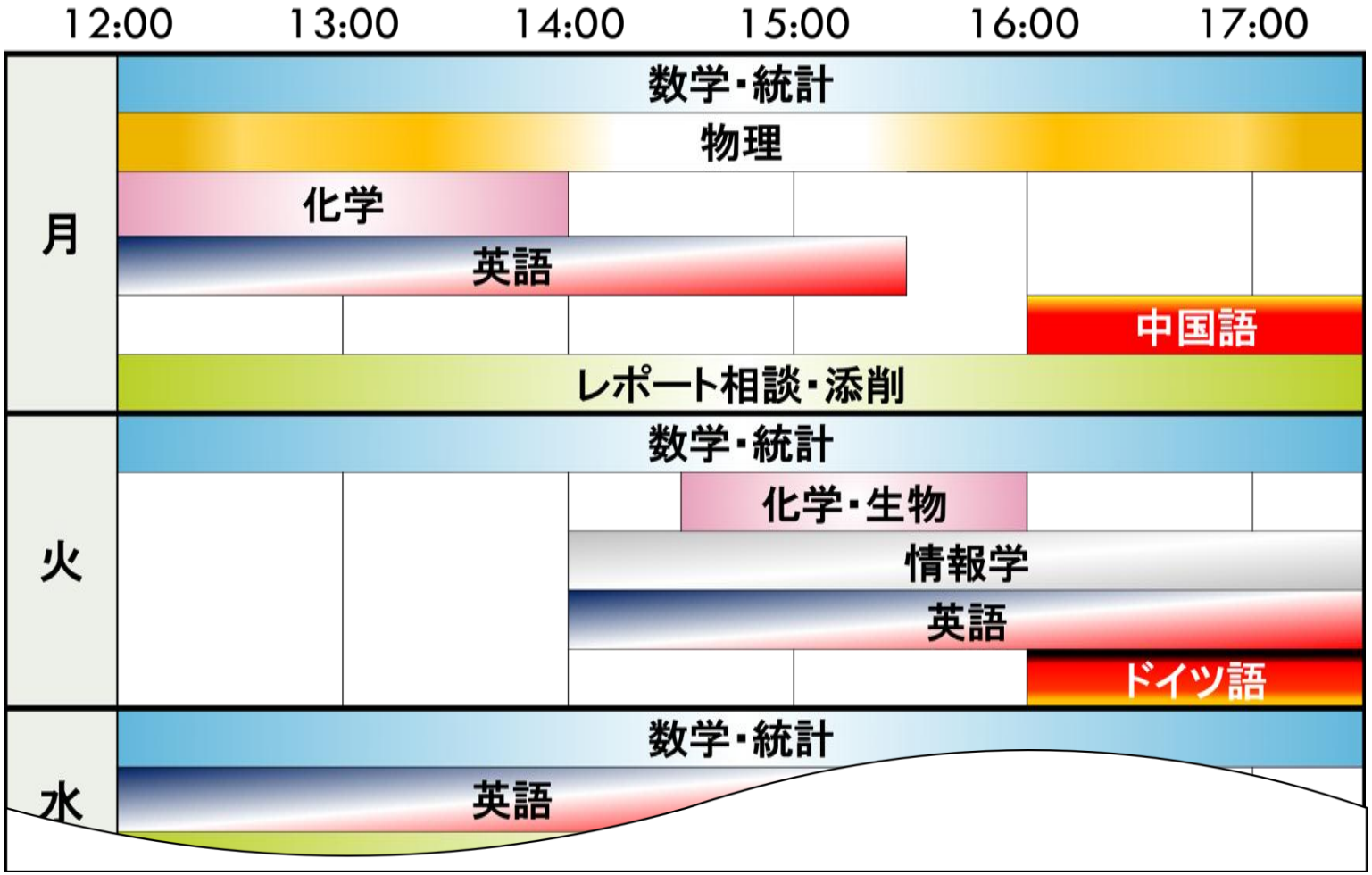
大学院生TA

ASC・科目責任者による推薦

TA研修会・分科会を修了

学習サポート・自習室

時間割


12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
月
数学・統計
物理
化学
英語
中国語
レポート相談・添削
火
数学・統計
化学・生物
情報学
英語
ドイツ語
水
数学・統計
英語

昨年度利用状況

第1学期	全体	1日平均	1時間当たり	1件当たり
開室日数	73	--	–	–
開室時間	384.5時間	5.3時間	–	–
利用件数	233	3.2	0.61	–
利用人数	280	3.8	0.73	1.2 人/件
利用時間	146.3時間	2.0時間	(稼働率) 38%	38 分/件

第2学期	全体	1日平均	1時間当たり	1件当たり
開室日数	85	--	–	–
開室時間	468 時間	5.5 時間	–	–
利用件数	292	3.44	0.62	–
利用人数	305	3.59	0.65	1.04
利用時間	229 時間	2.7 時間	(稼働率) 49%	47 分

今年度利用状況

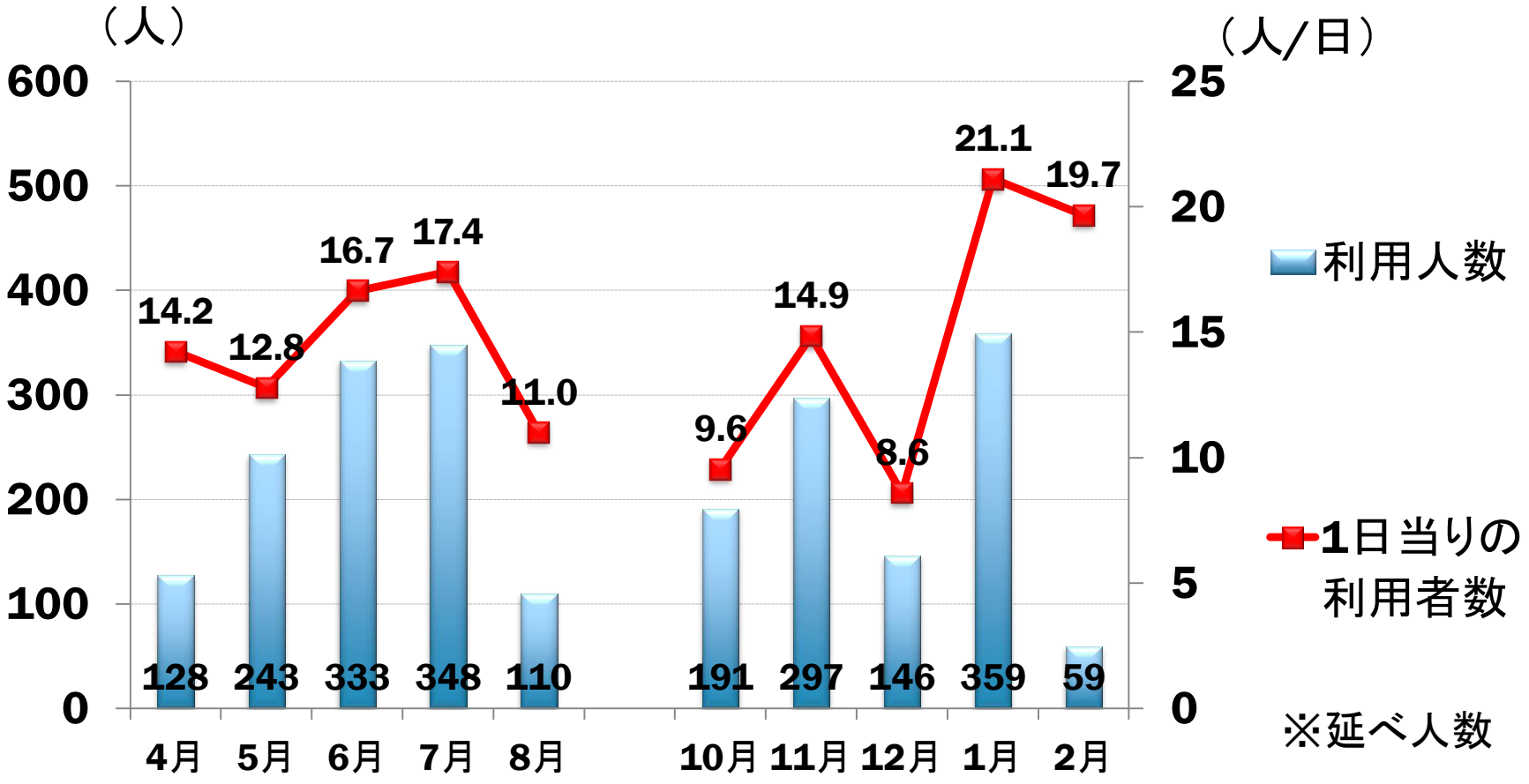
第1学期	全体	1日平均	1時間当たり	1件当たり
開室日数	78	–	–	–
開室時間	429 時間	5.5 時間	–	–
利用件数	1072	13.74	2.50	–
利用人数	1166	14.95	2.72	1.1 人/件
利用時間	654.9時間	8.4時間	(稼働率) 153 %	37 分/件

第2学期	全体	1日平均	1時間当たり	1件当たり
開室日数	77	–	–	–
開室時間	423.5 時間	5.5 時間	–	–
利用件数	975	12.66	2.30	–
利用人数	1052	13.66	2.48	1.1 人/件
利用時間	620 時間	8.05 時間	(稼働率) 146 %	38 分/件

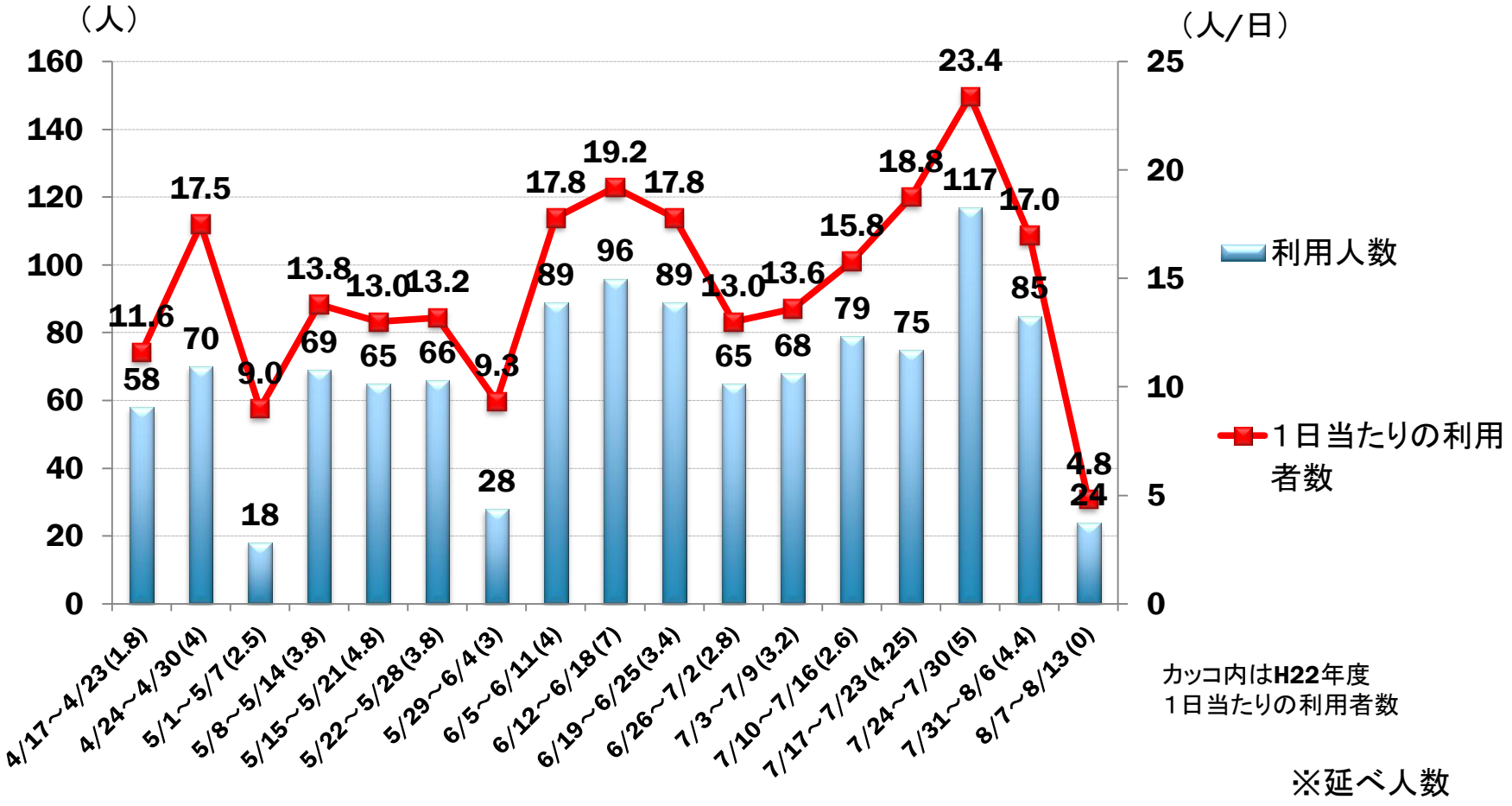
利用状況（2011/04/18～2012/02/06)

	全体	1日平均	1時間当たり	1件当たり	前年比
開室日数	155日	–	–	--	
開室時間	852.5時間	5.5	–	--	
利用件数	2047件	13.21	2.4	--	390%
利用人数（延べ）	2218人	14.31	2.6	1.08	379%
利用時間	1275時間	8.23時間	（稼働率）150%	37.4分/件	340%

月別利用状況


（人）
（人/日）
600
500
400
300
200
100
0
25
20
15
10
5
0
14.2
12.8
16.7
17.4
11.0
9.6
14.9
8.6
21.1
19.7
128
243
333
348
110
191
297
146
359
59
4月
5月
6月
7月
8月
10月
11月
12月
1月
2月
利用人数
1日当りの利用者数
※延べ人数

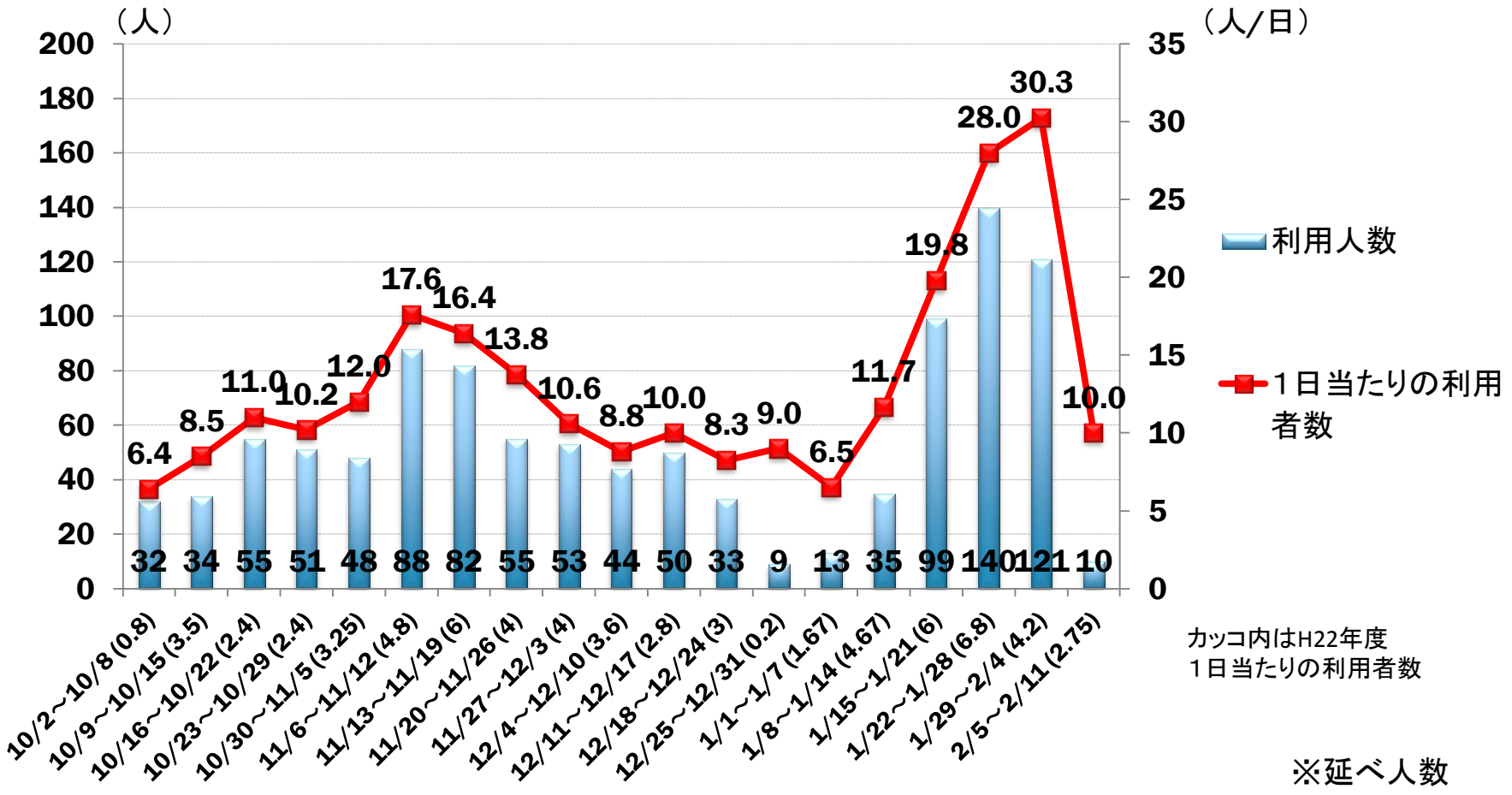
週別利用状況（平成23年度第1学期）



カッコ内はH22年度
１日当たりの利用者数

※延べ人数

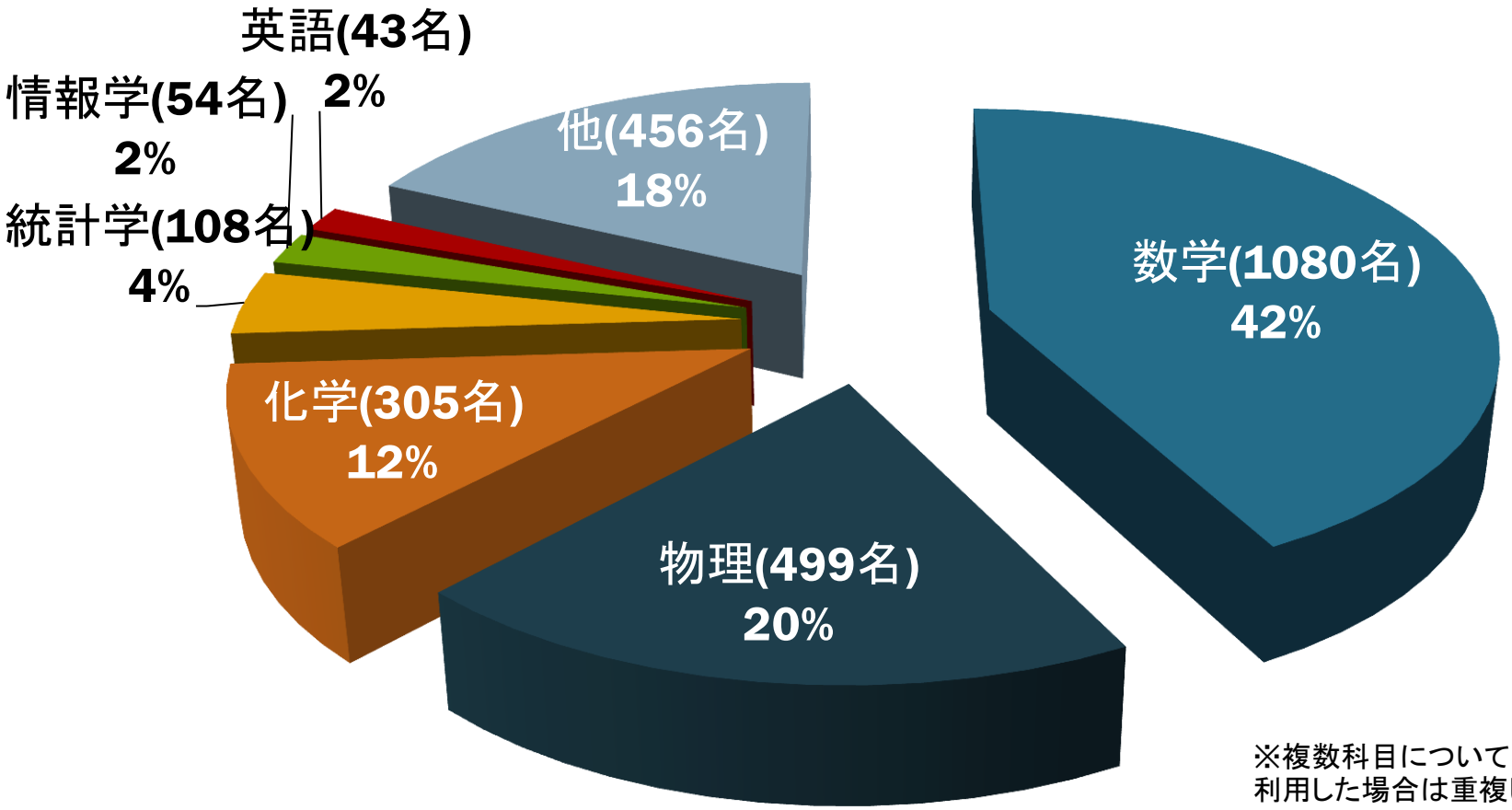
週別利用状況（平成23年度第2学期）



カッコ内はH22年度
１日当たりの利用者数

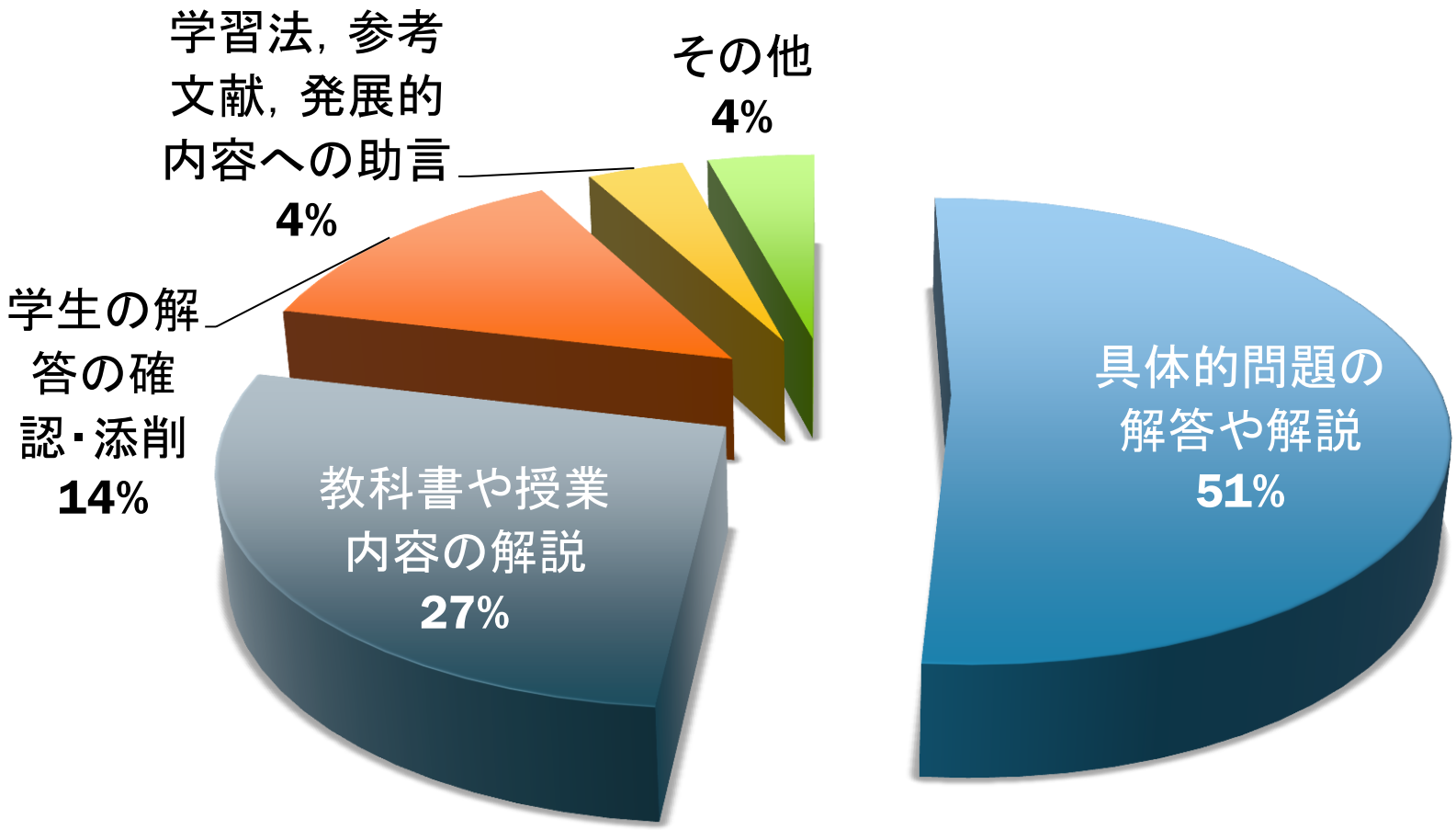
※延べ人数

科目別利用状況(2011/04/18～2012/02/06)

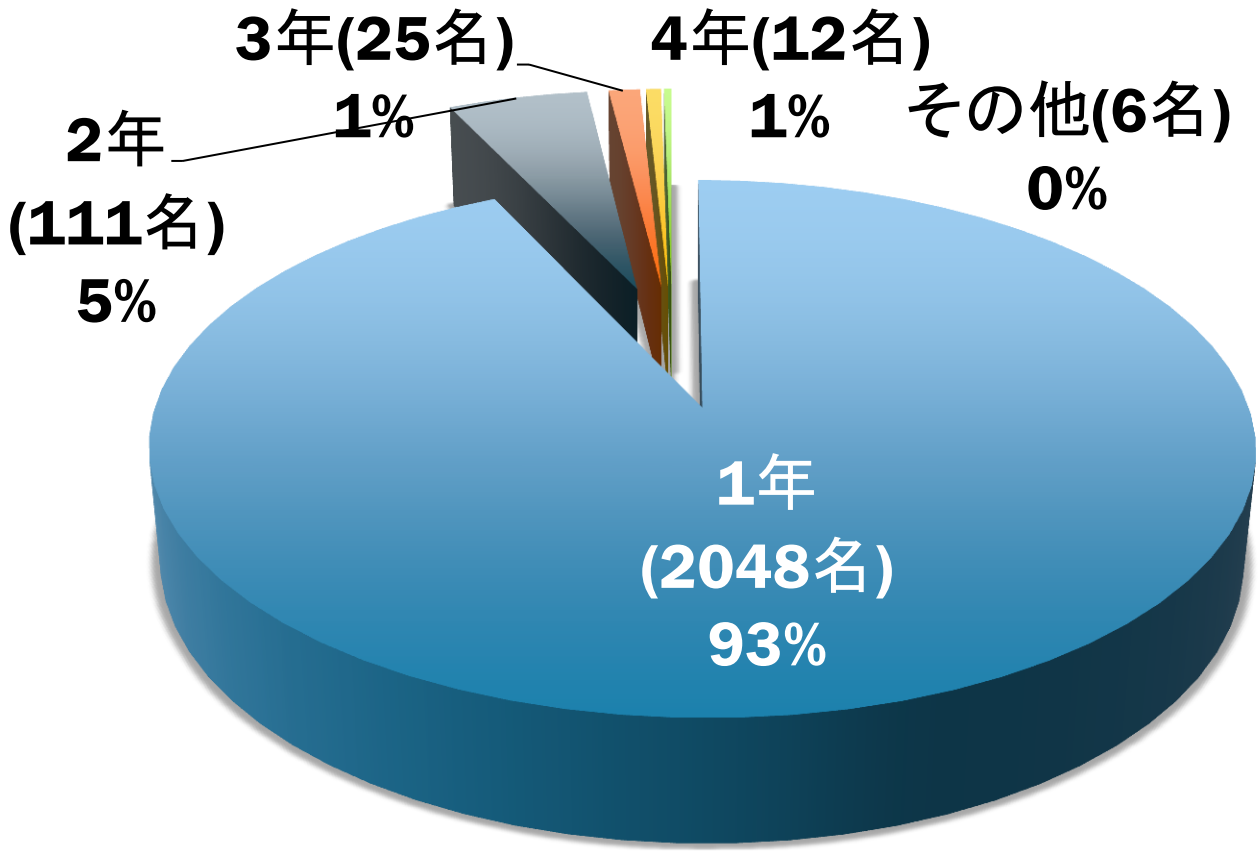


※複数科目について同時に
利用した場合は重複して集計

主な相談内容（平成23年度2学期）

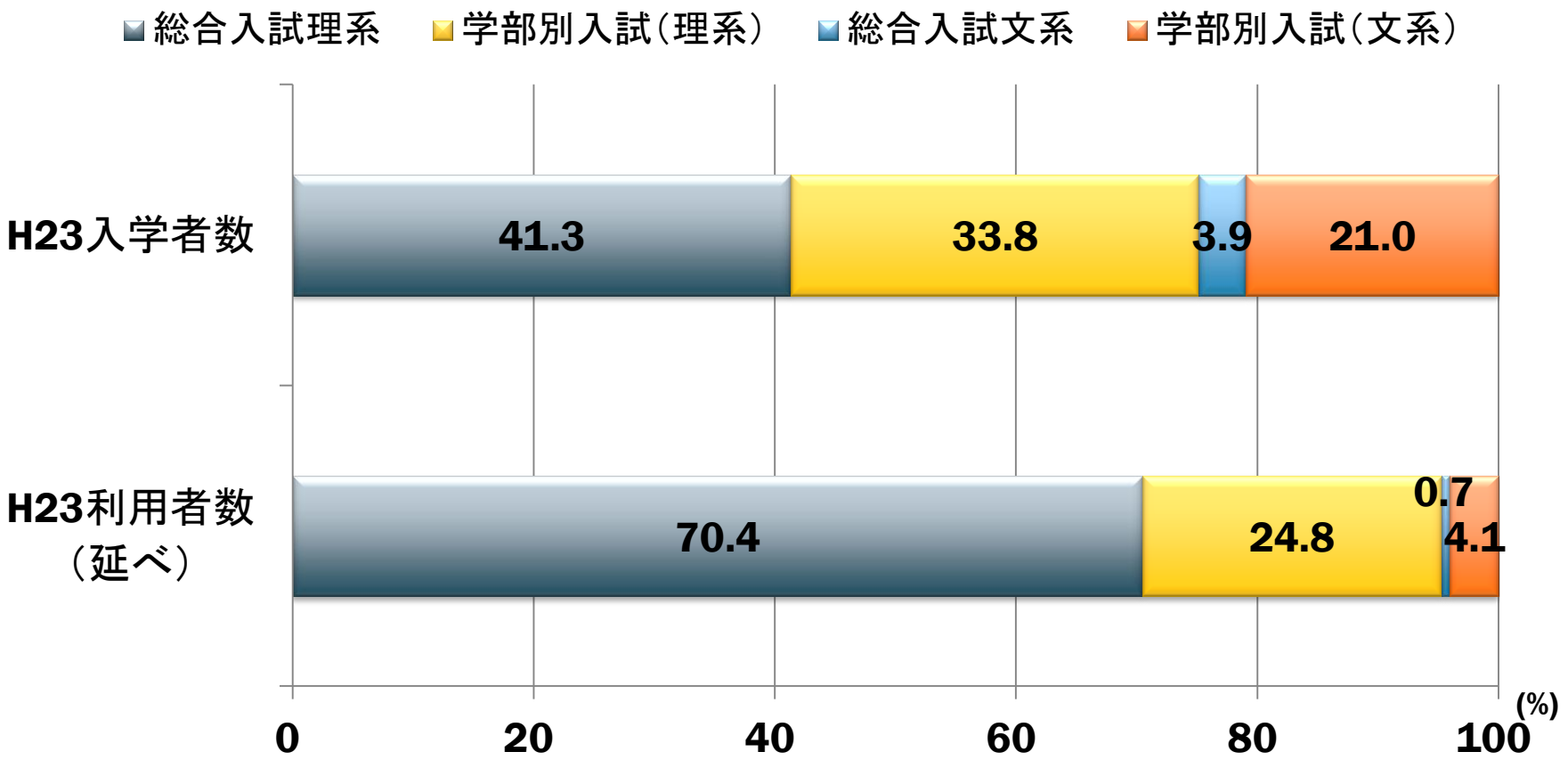


学年別利用状況(2011/04/18～2012/02/06)



※延べ人数

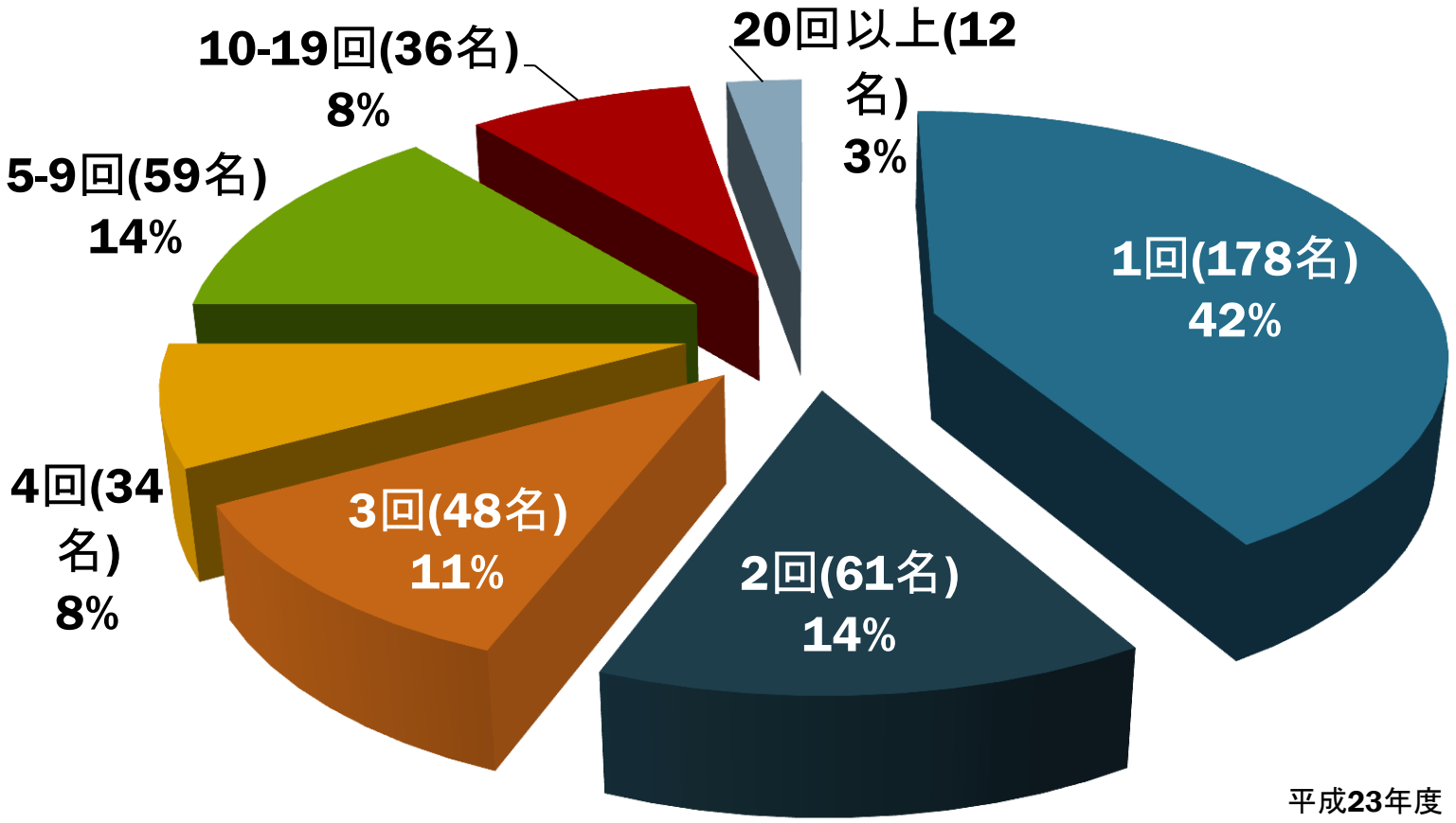
学部別利用状況(2011/04/18～2012/02/06)



※総合教育部1年次生を集計対象とする

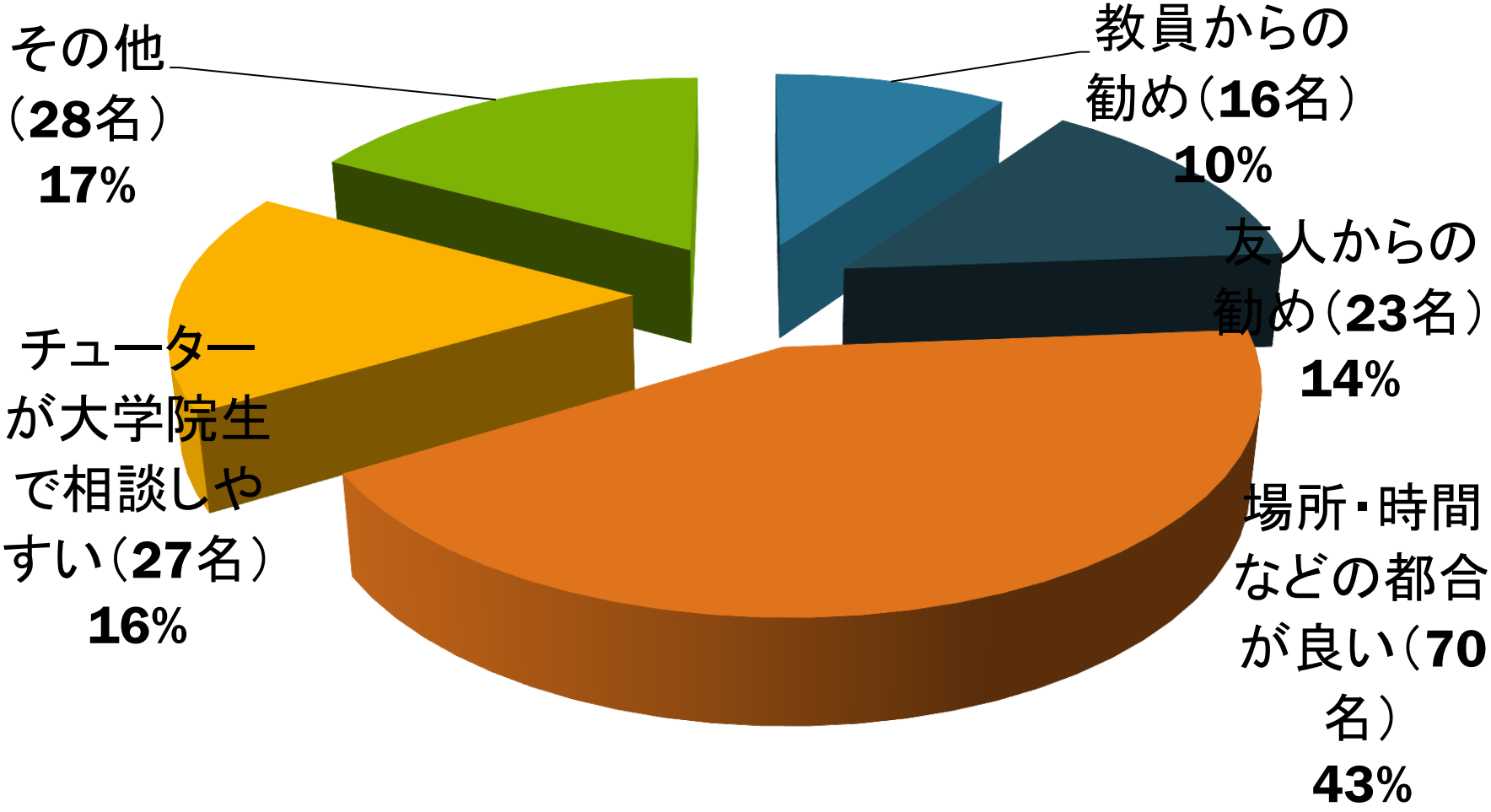
（削除）

繰り返し利用回数(2011/04/18～2012/02/06)

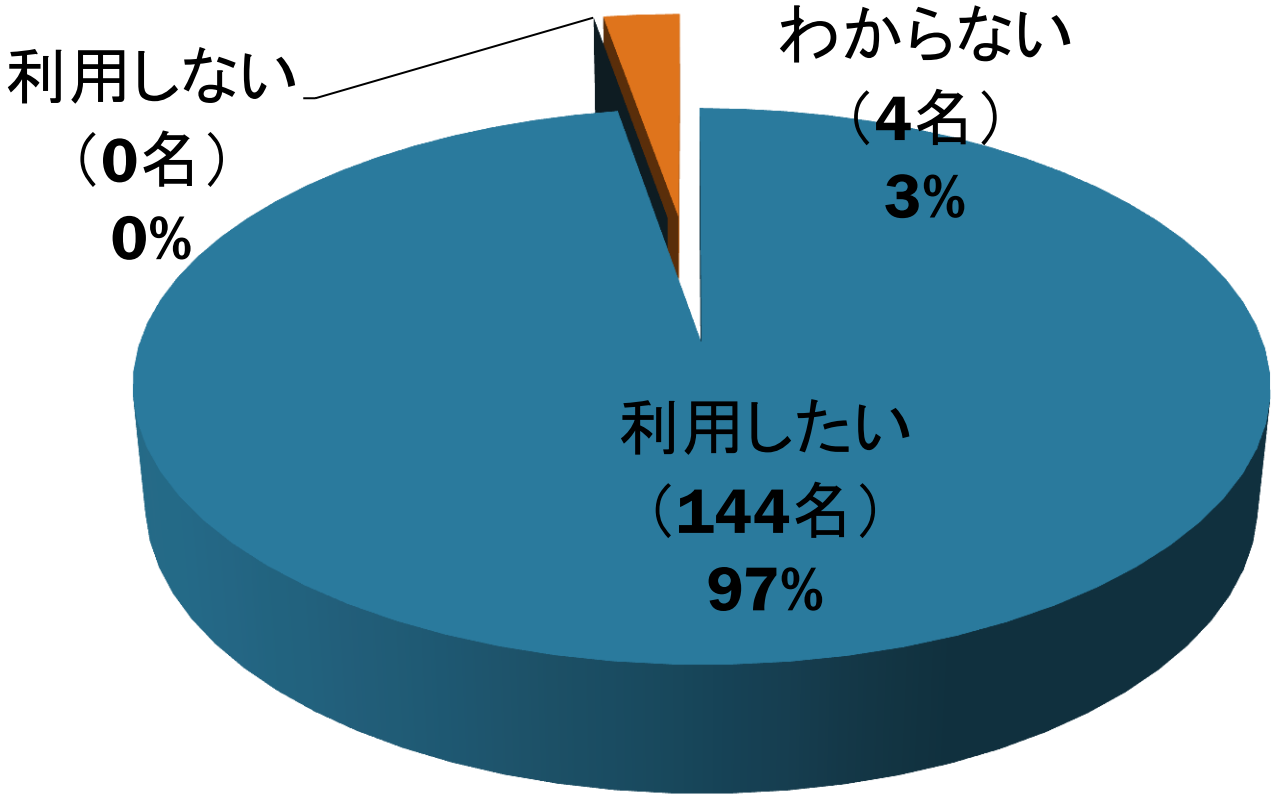


平成23年度
総合教育部1年次生

利用した理由（利用者アンケートより）



また利用したいか（利用者アンケートより）



学習サポート（評価と課題）

学生の多様化に対応する支援

- 2,200名に平均35分の個別対応

主体的学習の支援

- 学生は（強制でなく）主体的に利用している
- 自覚のない学生には利用されない難点も

学生から高評価

- 繰り返し利用者が多く，満足度は高い
- 依存度が高くならないよう助言の工夫も必要

学習サポート(評価と課題)

正課との連携

- 今後は授業TAとの連携，効果的なフィードバック方法を検討

他の支援機関・活動との連携

- 学生相談室：学修困難の学生への対応
- 留学生センター：留学生への周知

チューターへの教育的効果

- 研修と評価法の改善が必要

学習サポートまとめ

総合入試で多様化する修学を支援

高稼働率・高満足度

活動の評価やフィードバックが課題

スタディ・スキルセミナー

- 効果的な学習スキルをセミナー形式で紹介
- 主に1,2年次対象
- 講師: インストラクター
- 合計81名が参加
  (昨年度は 67名)

スタディ･スキルセミナー

1学期（5月～6月）

- ノートの取り方 + タイムマネジメント
- レポートの書き方
- 情報リテラシー
- プレゼンテーションの方法

スタディ・スキルセミナー

2学期（10月～11月）：レポートの書き方セミナー

- 序論には何を書くか
- 「説明する」とは何をすることか
- 論理的な書き方とは

レポートの書き方セミナー

1日目

はじめに

この冊子、レポートの書き方セミナー１日目では、まず、大学でのレポートにはどのような種類があるかを確認します。次に、レポートを書くときの２つのプロセスと学習法を考えてみます。２つのプロセスというのは、ひとことで言えば、書くことを決めてから読むか、読んでから書くことを考えるかというようなことです。最後に、序論の書き方をチェックします。レポートや論文は、序論・本論・結論という構成で書くのだということがよく言われますが、今回は序論の書き方を考えてみましょう。

本日の内容

1. レポートの種類
2. レポート作成のプロセスと学習法
3. 序論の書き方

レポートの種類

レポートといってもいくつか種類があるようです。
（このほかにも、独特なレポート形式があるかもしれません。）

感想レポート　練習問題型　人文社会・一般教養レポート　実験レポート

感想レポート

講義のおわりに授業内容について感想をもとめられることがあるかもしれません。感想とはいえ、ふだんから授業内容に関する本を読むとか、好奇心のアンテナをのばしておくと書きやすいと思います。

練習問題型

数学や物理の数式など、途中の過程もはぶかず丁寧に書きます。あと、どの問題に解答したのか、はっきり分かるようにしておきます。

人文社会・一般教養レポート

スタンダードな論述タイプ。序論・本論・結論の様式でじっくりと書いていきます。本や統計を調べるなど、十分な準備が必要になります。

実験レポート

実験レポートでは、たとえば、目的・方法・結果・考察など項目をたてて書いてゆきます（項目の分け方は授業の指示に従う）。実験を行った手順や得られたデータを適切な項目に整理して報告します。

チェックポイント

どのタイプのレポートでも、取り組む問題をはっきり示します。そして、示した問題に自分の意見や主張・調査実験結果が合致しているか、チェックしてみましょう。

問題（問題提起、実験の目的など）と答え（主張、実験結果・考察）が合致していないときには、論述がどこかでズレてしまっているように見えてしまいます。まずは合致していることをチェックしましょう。

スタディ・スキルセミナー（今後に向けて）

- オンライン化
- 高学年向けセミナーの実施
- 図書館等との協力・連携

学生サポート《相談の流れ》

学　　生

クラス担任等・授業担当教員

相談内容により適した室を紹介

ピア・サポート室
（情報教育館2階）

- 学生生活に関する悩み相談

連携

アカデミック・サポートセンター
（高等教育推進機構E棟2階・N棟1階）

- 学部・学科決定にかかる進路相談等
- 学習サポート
- 調査分析による学習支援

連携

学生相談室
（高等教育推進機構N棟1階）

- 修学や友人関係等、様々な悩み、問題に対する「何でも相談」室

連携

保健センター

- 内科診療
- 精神衛生相談
- カウンセリング
- 健康相談
- 歯科相談

相談内容により適した室を紹介

アカデミック・ナビゲーター、インストラクター、アナリストが相談対応

相談内容により適した室を紹介

相談内容により適した室を紹介

《学生による気軽な相談》
北海道大学の先輩方が相談員
・週3回　14：00-18：00

《進路相談》
アカデミック・ナビゲーター（特定専門職員）
《学習サポート》
アカデミック・インストラクター（特定専門職員）
《データに基づく進路相談》
アカデミック・アナリスト（特定専門職員）
・月-金　9：00-17：00
E棟オフィススペース・学習スペースで対応

学生相談室受付
（予約受付等）

《悩み・問題相談》
臨床心理士、教員等
・月-金　10：00-17：00
・予約により対応

《健康相談》
専門医
カウンセラー
・月-金
・保健センターで対応

総合的なアドバイスの場合

学部の詳細等の相談の場合

《総合的な進学相談》
アカデミック・アドバイザー（兼務教員：学内3名程度）
・週1回半日程度　N棟個別相談スペースで対応

《学部に関する相談》
学部相談員（仮称：各学部相談教員、各学部1名以上）
・各学部もしくはN棟個別相談スペースで適宜対応

現在の ASC

課題

将来像

進路選択支援機能
（ナビゲーター2名）

連

学習支援機能
（インストラクター2名）

携

データ分析機能
（アナリスト2名）

⇩

主に総合入試
新入生対象

- 個別相談情報の蓄積・整理とクラス担任へのフィードバック
- アドバイザー、学部相談員、学生相談室、ピア・サポート室等との協働
- アカデミック・マップの刷新とウェブによる公開情報の精査
- 学習サポート情報の教員へのフィードバック、ウェブでの公開
- 教材・教科書の検証と改善、自習用教材開発、ICTの活用法の提案、授業TAとの連携
- 留学生や学部生・大学院生への学習サポートの充実
- 追跡調査や各種データの解析による総合入試やASCの活動の検証と情報のフィードバック
- アドッミションセンターや高等研究部等との協働体制の確立

効率化・合理化したサポート

- 進路相談機能の合理化、ウェブによる公開情報の充実
- 学内学生支援機能の有機的接続のコーディネート
- 修学支援機能の全学的な拡充、留学生や学部生・大学院生の修学支援体制の確立
- 学習サポート情報のフィードバックと教員やTAとの連携による授業改善
- 入試制度やカリキュラムの改善
- データ分析機能の効率化

新たに期待される成果
全学的な教育環境の高度化による大学基礎力の向上

その他の活動

ASCのサポート体制を積極的にアピール

広報・講演会等

- 北大ソウル大合同シンポジウム、札幌南高等学校大学研究講演会、高等学校と大学の連携に関する研究会、全国大学教育研究センター等協議会総会、GSI 研修会などで講演
- クラス担任会議、科目責任者会議などで活動報告
- 高等センターニュース、ニュースレターNo. 81～87に記事掲載
- ASCリーフレット、アカデミック・サポートセンターニュースなどの発行
- 学生生活の手引き、総合教育部便覧、クラス担任マニュアル、北海道大学総合入試案内、えるむ134・136号などに記事掲載

学内外から高い関心を集める

来客・来室

- 他大学からの視察　5件（前年度6件）：千葉大学付属図書館長、立命館大学接続教育支援センター長、立命館大学理工学部副学部長、弘前大学21世紀教育センター副センター長、同志社大学教育開発センター事務長、など
- 新聞・雑誌の取材　3件：読売新聞、週刊東洋経済、北海道新聞
- 北大内の他機関からの訪問　5件（前年度1件）：リテラポプリ、附属図書館、総合博物館、サステナビリティ・ウィーク、キャリアガイドブック

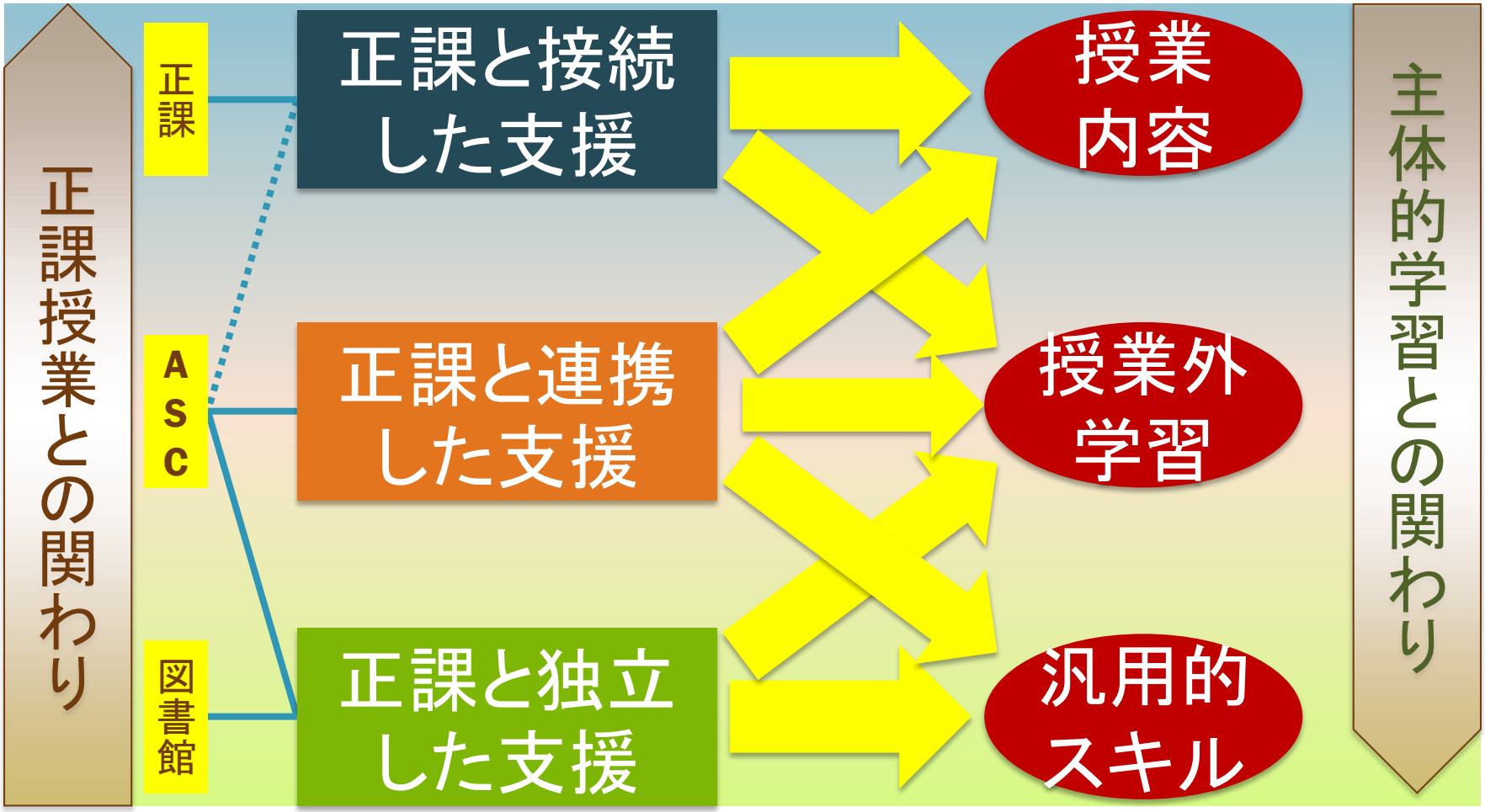
他大学での学習支援の様子

多くの大学で取り組み（ごく一部）

大学	実施	概要	開始時期
東北大	理学部キャンパスライフ支援室	TAによる学習サポート	2004
東京大	学生相談室/初年次活動センター	TA，JTAによる学習相談，言語カフェ	2005?
九州大	学生相談室，附属図書館	図書館学習サポーター，新入生サポーターなど	2009
名古屋大	附属図書館ラーニング・コモンズ	院生サポートスタッフによる学習相談，ミニ・レクチャー，リファレンス対応	2009
大阪大	附属図書館ラーニング・コモンズ，大学教育実践センターガイダンス室	図書館TAによる学習相談・講習会，学習アドバイザーによる学習相談	2010

- 「新しい時代における教養教育の在り方について」（2002）
- GP等による支援（2003～）
- 「学士課程教育の構築に向けて」（2008）

学習支援のタイプ


正課授業との関わり
正課
ASC
図書館
正課と接続した支援
正課と連携した支援
正課と独立した支援
授業内容
授業外学習
汎用的スキル
主体的学習との関わり

正課と接続した学習支援

	典型的な特徴
性格	能動的支援
目的	授業内容の理解，習得
方法	補講・補習，授業課題に対するサポート
実施	正課授業の教員やTA
対象	授業履修者
利点	授業と整合，直接的効果，責任が明確
難点	学生の主体性を発揮させる工夫，正課の負担

正課接続型：島根大学

メンター制度：院生によるサポート

授業内質問受付，授業課題作成

授業外質問受付，学習室でのサポート

成績による効果測定

（写真削除）

島根大学 メンター制度 活動報告書より

正課接続型：大阪府立大

- 授業担当教員が対応する個別質問受付。一部TAも活用
- 講義棟内で実施
- 小テストの採点・再提出と連動
- Web教材の活用など複合的取り組み

（写真削除）

2010年度 IDE 大学セミナー 報告書より

正課と連携した学習支援

	典型的な特徴
性格	補完的支援
目的	授業外の主体的学習を支援
方法	個別対応によるアドバイス等
実施	学生支援機関のTA等
対象	全学生
利点	主体的利用，TA教育，正課へフィードバック
難点	効率，直接的効果，授業と不整合の恐れ

正課連携型：東京女子大学

図書館学習コンシェルジェによる学習支援

論文，レポートの支援

卒論関係の支援内容は指導教員へフィードバックも

複数の学生アシスタント活動の一環

システム・サポーター，
学習コンシェルジェのスペース

正課連携型：金沢工業大学

- 教員等による多様なプログラム
- チューター制度，学習支援デスク
- ライティングセンター
- 数理リテラシーパスポートプログラム
- **e-Learning**，おタスケケータイ

（写真削除）

2010年度 IDE 大学セミナー 報告書より

正課と独立した学習支援

	典型的な特徴
性格	間接的支援
目的	汎用的スキル獲得，基礎力向上
方法	イベント，セミナー，個別相談等
実施	院生，学部生，職員等。図書館の例も増加傾向
対象	全学生
利点	修学・学習全般の支援，基礎力の底上げ
難点	成果評価に工夫が必要

正課独立型：愛媛大学

- スタディ・ヘルプ・デスク（SHD）
- 大学院生アドバイザーによる学習相談
- 学習内容とスタディ・スキルへのサポート
- 自習室を兼ねる：自習教材の提供

（写真削除）

愛媛大学 スタディ・ヘルプ・デスクのウェブサイトより

正課独立型：名古屋工業大学

先輩のいる学習室

ピアサポーターによる学習支援

教員（学習相談員）によるサポートもあり

（写真削除）

名工大ピアサポート 先輩のいる学習室のウェブサイトより

教育先進国アメリカでは…

TAによる授業：TF，GSIなど

- TF/GSIがオフィスアワーを持つ：必然的に授業接続型の授業外対応が整備

アカデミック・ライティング

- ほとんどの大学にライティング・センター

ラーニング・コモンズ

- チューターや専門職員も充実

図書館学習支援

1. 学習環境整備（ラーニング・コモンズ）

- 施設，設備，物的資源
- ICT

2. 人的支援

- 学生によるサポート
- 専門職員によるサポート

3. 連携・ハブ化

- アクティブ・ラーニング型授業
- セミナー，ワークショップ，カフェ，他機関連携イベント

図書館学習支援の例

大学	人的支援	イベント（一部）
お茶大	LA，LiSA	キャリアカフェ，進路相談
ICU	WSDチューター	WSDワークショップ
東京女子大	各種学生アシスタント	ガイダンス等
千葉大	ALSA	アカデミック・リンク・セミナー
名古屋大	院生サポートスタッフ	ミニ講座，レポート講座
大阪大	図書館TA	レポート講座，話し方講座
筑波大	チューター	進路相談
新潟大	LA	ビブリオクロス
上智大	大学院生スタッフ	ラーニング・コモンズ・セミナー
法政大	学習アドバイザー	レポート作成講座

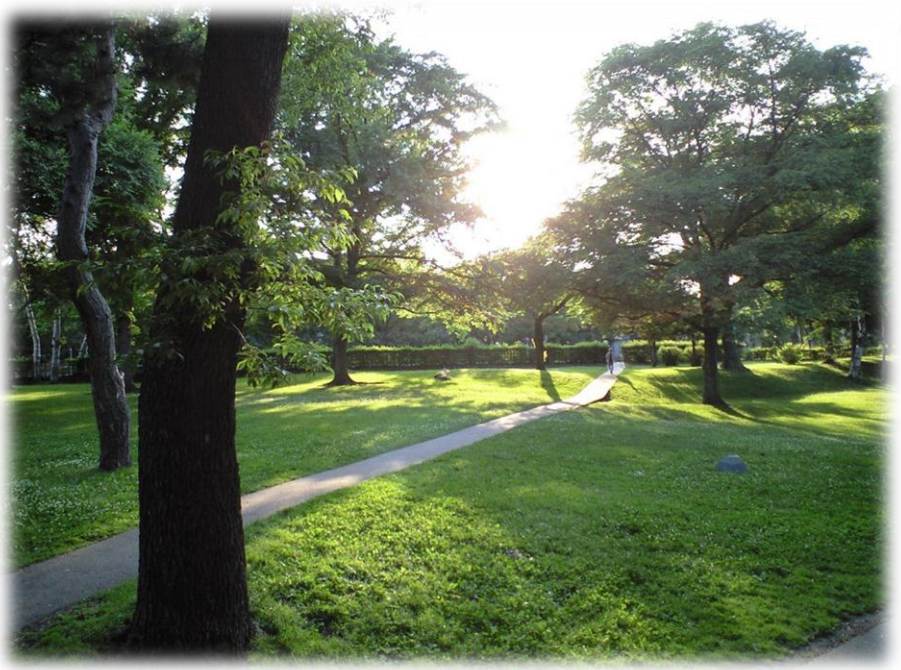
図書館ASC連携の可能性

人的支援での連携

- ライティング・チューター，学習相談チューターの派遣

イベント開催での連携

- 共催ワークショップ，セミナー：情報リテラシー，スタディ・スキル
- アカデミック・カフェ：学部共催イベントなど



ご静聴ありがとうございました。